



九月 (小) 長月

ながつき

軫宿

九月七日白露の節より
月命丁酉四緑木星の月
暗剣殺東南方

旧八月大

●朔二朔月のことで、新月を指す

日曜日	千支	九星	行	事	旧曆	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月丈	満潮	干潮
1日	木	ひのえいぬ	八白	●朔一八時〇三分、旧八朔、関東大震災記念日、防災の日、旧八月大	朔	友引	みつ角	母倉	母倉	5.13 18.08	4.49 18.01	10.58 17.21	17.21 23.17
2日	金	ひのと	七赤	富山八尾風の盆(1日、3日)、二日祭、三隣亡、不成就日	二	先負	たいら	亢	大みぎう	5.14 18.07	5.47 18.35	5.05 17.45	4.30 10.21
3日	土	つちのえ	六白	一粒万倍日	三	佛滅	さん	氏		5.14 18.06	5.47 18.35	5.05 17.45	4.30 10.21
4日	日	つちのえ	五黄	敦賀氣比神宮祭	四	大安	とる	房	●	5.15 18.04	7.39 19.40	6.13 18.08	11.32 23.49
5日	月	かえ	とら		五	赤口	やぶる	心	ぶく日	5.16 18.03	8.34 20.12	6.47 18.55	0.49 13.02
6日	火	かのと	う	三碧	六	先勝	あやぶ	尾	神よし	5.17 18.01	9.28 20.45	7.24 19.20	1.19 13.30
7日	水	みづのえ	たつ	二黒	七	友引	あやぶ	箕	大みぎう	5.18 17.59	10.22 21.21	8.04 19.48	1.51 13.57
8日	木	みづのえ	たつ	二黒	八	先負	なる	斗	十し	5.19 17.57	11.15 21.59	8.52 20.58	2.27 14.28
9日	金	きのお	え	うま	九	佛滅	おさん	牛	めもん	5.20 17.56	12.08 22.41	9.57 20.58	3.13 15.08
10日	土	きのお	え	たつ	十	大安	ひらく	女	●	5.21 17.53	13.00 23.27	11.42 21.54	4.27 16.38
11日	日	ひのえ	さる	七赤	十一	赤口	とる	虚	神よし	5.22 17.51	14.39 0.18	13.07 23.07	6.10 18.54
12日	月	ひのと	とり	六白	十二	先勝	たつ	危	天火	5.20 17.54	13.50	14.07 23.07	6.10 18.54
13日	火	つちのえ	いぬ	五黄	十三	友引	のぞく	室	母倉	5.21 17.53	13.50	15.36	7.30 20.13
14日	水	つちのと	ら	四緑	十四	先負	みつ	壁	ちう日	5.22 17.51	15.25 1.14	16.06	8.28 21.05

残暑はまだまだ厳しいが、それでも月半ばを過ぎると朝夕涼気を感じよう。この季節、夏場の疲れが表面化したり、暑さのために消化器系統が弱つていたり、とかく健康を害しやすい。健康管理に十分に留意しないと、思わぬ重病になることがある。

また立春から数えた「二百十日」や「二百二十日」があるが、これは農作(稲の開花期)と台風の関係を表している、注意を喚起するようにしたわが国独特の呼称である。

【冠】九月九日は五節句の最後「重陽(九)という数字を陽数とした陰陽術による)の節句」という。またの名を「菊の節句」と呼ぶように、この日は酒に菊花をひたして飲み、健康長寿を祝うならぬと伝えられていた。

【婚】この月から秋の結婚シーズンが始まる。挙式に続く新婚旅行にも快適な気候である。ただ、それな

15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
かえ	かのと	みづのえ	みづのえ	きのお	きのお	ひのえ	ひのえ	つちのえ	つちのえ	かえ	かのと	みづのえ	みづのえ	きのお	きのお
三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白
十五夜、老人の日、老人週間(21日迄)、京都石清水八幡宮祭	鎌倉鶴岡八幡宮やぶさめ	○望四時〇五分、三隣亡、岸和田だんじり祭	一粒万倍日、不成就日	○敬老の日、彼岸入り、岩手水沢駒形祭、子規忌	神奈川寒川神社例祭、空の日	秋の全国交通安全運動(30日迄)	秋分の日、秋分三時二分、彼岸中日、動物愛護週間(20日、26日)	下弦一八時五六分、川柳忌、社日、天しゃ、一粒万倍日	結核予防週間	彼岸明け	和歌山日前・国懸祭、不成就日	小田原道了尊大祭、八せん始め		曹洞宗西祖忌、三隣亡	一粒万倍日
十五	十六	十七	十八	十九	廿	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	卅
佛滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口	先勝
たいら	さん	とる	やぶる	あやぶ	なる	おさん	ひらく	とる	たつ	のぞく	みつ	たいら	さん	とる	やぶる
奎	婁	胃	昂	畢	觜	参	井	鬼	柳	星	張	翼	軫	角	亢
月とく	母倉	大みぎう	大みぎう	大みぎう	大みぎう	大みぎう	●	よろづ	大みぎう	百事吉	大みぎう	天おん	天おん	きこ	く日
5.23 17.48	5.24 17.47	5.25 17.45	5.26 17.44	5.27 17.42	5.27 17.41	5.28 17.40	5.29 17.38	5.30 17.37	5.30 17.35	5.31 17.34	5.32 17.32	5.33 17.31	5.33 17.29	5.34 17.28	5.35 17.26
16.51	17.32	18.11	18.51	19.33	20.17	21.04	21.55	22.49	23.46	—	13.58	14.44	16.01	16.36	17.08
3.25	4.09	4.52	5.35	6.18	7.04	7.54	8.50	9.59	10.03	11.57	14.05	15.27	16.04	16.43	17.22
10.00	10.41	11.19	11.57	12.33	13.08	13.42	14.18	15.04	15.04	16.39	19.13	21.14	21.50	22.23	22.54

くても心労が重なった直後だけに、ハードなスケジュールは極力避け、一生の思い出にぜひ心あつい旅行を持ちたいものである。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「秋分の日」を中心とした七日間が秋のお彼岸である。先祖に感謝し精霊の供養や墓前の香華の手向け等を行う。暑さ寒さも彼岸まで、暑さの時もまず越えたものといえよう。

【祭】九月一日は「防災の日」これは大正十二年のこの日関東一円を襲った大地震によって、未曾有(みぞう)の災害が出たために、災害の怖さを銘記するよう定められた日である。

この月の下旬、旧曆八月十五日は「十五夜の望月」である。これを仲秋の名月というのは、七月を初秋と八月を仲秋、九月を晩秋といい、その八月の十五夜が満月だからである。

「敬老の日」九月第三月曜日(平成十五年実施)。社会に尽くしてきた老人を敬愛し長寿を祝う日、また十五日が「老人の日」、十五日から二十一日までは老人週間(平成十四年実施)である。

●上弦二上弦の月を指す